収めているのでさらに多くの研究者に資するものと考えられる.

また，1996年より付属図書館において絵図類データーベース作製がはじめられ，全国に情報発信し，インターネットに載せることも計画されている.

（この文章は発表者が急逝したため，岡山大学図書館の了解を得て学会開催担当者が補完したものである.）

8）小島原泰民著歯科小技について

"SHIKA SYOUGI" Written by Yasutami Kojimabara

日本大学松戸歯学部　○山口　秀紀
村木　春長
渋谷　幸男
谷津　三雄

Hidenori Yamaguchi, Harunaga Muraki, Yukio Shibutani and Mitsuo Yatsu, Nihon University School of Dentistry at Matsudo

演者らは第23回（平成7年度）本学会総会において小島原泰民と歯科病理書について報告した.日本歯科医師会編，歯科医事衛生史前巻（昭和15年10月30日発行）の歯科図書の項の第10番目に歯科小技，小島原泰民，明治23年2月刊，ハーリス及びガレットの歯科手術書の訳と簡単にされている．小島原泰民は東京歯科専門医学校（明治21年3月創立），歯科矯和会（同年8月創立）（同年9月に歯科講義会，更に私立大日本歯科講義会と改称）および長交会（明治31年初夏創立）などで講師として勤務．その間，欧米の医学書，歯科医学書を読破し，歯科小技（明治23年2月刊）から歯科解剖学図譜（明治35年）まで14種類以上の多数の著（訳）書があり，これら著書がわが国の黎明期における歯科界に及ぼした影響ははかりしれないものがある．今回は小島原の処女出版である歯科小技について解題を試みた.

本書は14×20.5 cm大，洋本，全254ページ，明治23年2月出版，発行人小島原泰民，印刷所東京築地活版製造所，発行書肆，島村利助，丸善書店，金1円50銭，凡例に「一日歯科醫某君余カ僑所ヲ訪フ談偶々醫事ニ渉リテ曰く歐州文明ノ祥雲一タヒ東洋ニ靉クヤ文物制度悉ク一新シ，就中醫學ノ如キハ最モ駿速ノ進歩ヲ為シテ診療ノ術大ニ改リ解剖，生理，病理，藥劑，内外科書等ノ著譯ハ汗牛充棟啻ナラサルノ盛大ヲ致セリ，之レニ隨ツテ歯科モ亦タ漸ク頭角ヲ露ハシ近來ニ至リテ各處ニ歯科専門学校ノ聳立セルヲ見ルハ眞ニ賀ス可キノ秋ト謂フ可シ，盖シ後進ノ士ヲ誘掖セント欲セハ完全ノ教科書ヲ編述スルニ如カズト雖モ歯科に關スル著書ハ僅々ノ少数ニシテ殊ニ手術ニ關スル書ノ幾ント絶無ナルヲ遺憾ナリトセリト…本書ハ余カ歯科講義會ノ講本ニ供センカ為メ現時世ニ行ハルルハーリス氏並ヒニバーレット氏ノ歯科手術書ニ就キテ大略ヲ纂譯セルモノナリ……文意ノ明白ナラザル所毎章之レアルヲ認メシカ故ニ敢テ世ニ公ニスルコトヲ好マストノ一言ヲ以テセリ君良ヤ少ラク繙閲セル後突然口ヲ發キテ曰ク善キ哉是ハ歯科醫ノ技術上一日モ欠ク可カラサル所ノ急務ノ書タリ子ヤ何為レゾ速カニ世ニ公ニセサルカ文字ノ優麗ナラサルハ深ク尤ムル所ニ非ラズ…歯科ニ於ケル今日ノ急務ヲ補フノ一助トナルニ至レバ……君ノ言ヲ諾シ遂ニ活字ニ附スルコトト為セリ若シ果シテ君ノ云ヘルカ如ク此書ニシテ世ヲ益スルノ微價アリトセハ余ノ幸福之レニ過キサルナリ」から本書は，歯科講義会のテキストとして出版されたものであることを知ることができる．しかし「歯科醫某君」とは誰であるかを知ることはできない.

目次から内容を見ると第一章は第一歯牙発生期は1～7ページで「暫歯ノ發生」で乳歯の発生と解剖，第二章は第二歯牙発生期7～10ページで「久歯發生ノ順」など永久歯の発生と解剖，第三章は久歯発育ノ異常10～13ページで梅毒歯を含む口腔病理，第四章は久歯位置ノ不正14～30ページで歯科矯正，第五章歯牙ノ朽傷31～72ページで歯根膜を主とした歯周疾患，第六章は歯痛73～79ページ，第七章歯牙ノ器械的損傷80～83ページで歯牙の磨耗と外傷，第八章歯牙並ヒニ其遺株ノ抜除84～108ページで抜歯術，第九章は迷矇藥嗅入並ニ其他ノ小技術108～123ページで全身麻酔と義歯，歯石など．なお，この項の全身麻酔薬については演者らの一人谷津が歯学史資料図鑑に詳述してある．第十章造腔術123～135ページで空洞防湿法を含む歯内療法，第十一章充塡料136～161ページで保存療法，第十二章は金充塡料送入法並

ニ固實法162〜192ページ，第十三章充塡術194〜234ページ，第十四章植歯術235〜241ページで再植術と移植術，第十五章は顎骨損傷241〜254ページで顎骨骨折などが記されている．凡例に「歯科医ノ技術上一日モ欠ク可カラサル所ノ急務ノ書タリ」とあるが，補綴学の項目についての記載は皆無であり，第九章の迷朦藥嗅入並ニ其他ノ小技術の項に「義歯板ノ所要」に「義歯ハ現今ニ至リ非金ヲ以テ捏造シ而シテ之レヲ金若シクハ護謨臺ニ植ユルヲ常事ト為セリ」また「義歯板箔装ノ時期」の項に「抜除ヲ行ヘル後一日乃至二日ヨリ六ケ月ニ至ルノ間ヲ經テ口内ノ模型ヲ像寫シ之レニ據リテ義歯版ヲ鑄造ス可シ」と僅かに2ページをさいて書かれているにすぎない．

9）明治18年8月刊行の『歯科全書初篇』と訳者河田鏻也について

On the "Shika-Zensho (A System of Oral Surgery)" and Rinya Kawada

樋口　輝雄

Teruo Higuchi

ガレットソン著，河田鏻也・大月龜太郎訳の『歯科全書』については，すでに谷津三雄先生らが，『歯界広報』100号記念，歯科医学史特集号（1965年）の中で，詳細に考究されている．また森山徳長先生と長谷川正康先生は，1987年の本学会第15回学術大会において，東京歯科大学図書館所蔵のガレットソンの原著"A System of Oral Surgery"の初版と第5版を基に，その編集史的な変遷について報告された．

演者は『歯科全書』各篇の所蔵先について調査したが，国立公文書館内閣文庫には，初篇，前篇，後篇が各1冊，国立国会図書館と函館市立函館図書館には，前篇が各1冊，東京歯科大学図書館には前篇3冊，後篇3冊，図解篇1冊，日本大学松戸歯学部歯学史資料室には前篇，後篇，図解篇が各1冊所蔵されていることが確認できた．なお演者は古書店から購入した図解篇1冊を架蔵している．

各々，同書を所蔵する各機関のご厚意により閲覧することができたが，東京歯科大学所蔵の前・後篇1組は，「青山氏蔵書」と奥書があり，前篇には，「明治十八年十一月九日，購求之，青山千代次」と書かれており，前・後・図解篇1組は伊澤家寄贈によるものという．また日本大学松戸歯学部所蔵の1組は堀内徹先生の蔵書だったとの由である．

国立公文書館所蔵の初篇は「第十八章　全身迷朦　附イーテル」までの659頁，前篇では「第二十八章　顎骨疽」までの917頁，奥付の前には正誤表4頁が付けられているが，本文の内容には異同はなかった．

初篇の奥付は，明治18年8月7日，定価1円65銭となっているが，前篇では10月18日出版，定価3円50銭で，内務省総務局の『出版書目月報』の18年8月分，11月分にも同様の記載があった．しかし，日本大学松戸歯学部所蔵の前篇の奥付には，定価3円の印があり，目次の前には明治丙戌(19年)1月9日付の田代基徳の序文があり，19年以降は序文を付して3円で販売されたと推測される．

また，山田平太先生が『歯界展望』誌の昭和43年11月号で「河田鏻也と歯科全書」と題し，遺稿『日本周遊記』の跋文記載の河田の経歴を引用され，その解説では「……大月は牧師からもらったガアレットソン著歯科書を蔵していたので」と記されているが，大月龜太郎の息女の談によれば，「函館在住の某外人医師から貰った」（日歯雑誌1952年12月）との説もある．なお，明治23年11月に没した河田鏻也は青山墓地に埋葬され，1周忌を記念して友人たちの醵金により記念碑が建設されたと『日本周遊記』にはあり，霊園管理事務所でその所在を尋ねたが，不明であった．

『歯科全書』の原著である"Garretson's System of Oral Surgery"については，1872年の"Dental Cosmos" 14巻に2頁半にわたり紹介されており，「八ツ折判，約1100頁」との記載があることを報告したが，訳書との対照等については今後の検討課題としたい．